

地質柱状図

調査名 市立総合中学校新築に伴う土質調査
調査地点
調査年月日 昭和 年 月 日 ~ 月 日

ボーリング No. 6
標高 98.95 m
孔内水位 0.00 m
地点

標尺 m	標高 m	深度 m	層厚 m	柱状 図	色調	地質 名	観 察	相 対 稠 度	相 対 密 度	標準貫入試験										試料 採取	
										深度 m	10cm毎の 打撃回数	N 値					() 換算N 値				
											0	10	20	30	40	50					
1	97.65	1.30	1.30		暗灰	表土	草根多量混入。 粘着性強い。	極軟		1.15	2	30	1	1							
2	96.85	2.50	1.20		暗茶灰	砂質シルト	1.50m附近より色調変化する。粘着性強い。 下部均一。	中		2.15	10	30	4	3	3						○-1
3							深度3.00m附近やや砂分が多い。 礫径φ=2~8mm程度で円~亜円礫主体。			2.45	40	30	13	13	14						
4	94.85	4.50	2.00		暗青灰	シルト混り砂	所々に雲母混入。 粘土は比較的均一で雲母石炭混入。4.80m附近木片多量に混入。 粘着性は強い。			3.45	37	30	13	12	12						○-2
5										4.45	6	30	2	2	2						
6										5.45	7	30	3	2	2						○-3
7	91.85	7.0	2.60		暗灰	シルト混り粗砂	木片及び腐植物多量に混入する。 下部層に少量の砂分含む。 粘着性強い。 砂分が不均一。	中		6.45	8	30	3	3	2						
8										7.45	7	30	2	2	3						○-4
9										8.45	5	30	2	2	2						
10	89.85	10.00	2.00		暗灰	腐植物混り粗砂	砂分が不均一で雲母石炭混入。上部シルト分が多い。 深度12.50m附近に腐植物混入。 深度13.40m以下下部層では砂分が不均一。	中		9.45	13	30	4	4	5						
11										10.45	14	30	5	5	4						○-5
12										11.45	12	30	4	4	4						
13										12.45	14	30	4	5	5						
14	84.95	14.00	4.00		暗灰	シルト混り粗砂	礫径φ=10~35mm程度の円~亜円礫が主体で最大φ=60mm程度の礫も混入。			13.45	50	26	18	19	13						
15										14.45	39	30	12	12	15						○-6
16	82.95	16.00	2.00		暗灰	シルト混り砂	砂分が不均一。 粘着性は比較的強い。 少量の植物片が混入する。	硬		15.45	10	30	3	3	4						
17	81.85	17.50	1.50		暗灰	砂質シルト	砂分が比較的均一。	硬		16.45	12	30	3	4	5						○-7
18	80.95	18.00	0.50		暗青灰	シルト混り粗砂	礫径φ=15~30mm程度の円~亜円礫が主体で最大φ=60mm程度の礫も混入。 深度20.90m~21.20m位以下に粘土質シルトをばさむ。			17.45	50	23	18	20	12						
19										18.45	50	21	19	23	8						
20										19.45	50	16	22	28							
21										20.45	45	30	14	13	18						○-8
22										21.45	37	30	12	15	10						
23										22.45	23.00										
24										23.45	26	15	23	12							
25										24.45	25.00										
26	72.45	26.50	8.50		暗灰	シルト混り砂	砂分が不均一。 粘着性は強く深度27m~28.00m附近に腐植物混入し、28.00m以下層は比較的砂分が均一である。	中		25.45	30	30	10	9	11						
27										26.45	9	30	3	3	3						
28										27.45	14	30	4	5	5						○-9
29	69.95	29.00	2.50		暗灰	砂質シルト	礫径φ=3~25mm程度の亜円礫が主体で、深度29.20m附近に砂質シルトをばさむ。			28.45	32	30	9	10	12						
30	68.45	30.50	1.50		暗灰	シルト混り砂				29.45	46	30	13	14	19						○-10

備考

(註) 1. 標準貫入試験の項で10cm毎の打撃回数とは最初の10cm貫入に要した打撃回数、10cm~20cmの間で要した打撃回数、20cm~30cmの間で要した打撃回数をそれぞれ示したものである。

(註) 2. 試料採取方法の記号 (記号の右の数字は試料番号)

- 1 乱さない試料
- 2 貫入試験機による試料
- ◎-3 コアー試料

地質柱状図

調査名 市立総合中学校新築にともなう土質調査
調査地点
調査年月日 昭和 年 月 日 ~ 月 日

ボーリング No. 7 地点
標高 99.80 m
孔内水位 m

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	層 厚 m	柱 状 図	色 調	地 質 名	観 察	相 対 稠 度	相 対 密 度	標準貫入試験										試料 採取		
										深度 m	N 値 回 cm	10cm毎の 打撃回数			N 値 コア採取率() %						採取 深度 m	
												10 cm	20 cm	30 cm	0	10	20	30	40	50		
	99.60	0.20	0.20		黒	毛敷土	草根多量混入。															
1							粘着性に富む。 深度1.0~1.5m間は、 やや砂分多くなり、雲母片を 混入する。	軟		1.15 1.25	3/30	1	1	1								○-1
2		97.30	2.50	2.30		茶灰	色シルト質粘土		軟	2.15 2.45	3/30	1	1	1								
3							砂の粒子不均一で、軽石雲母混入。 深度3.0m付近シルトを挟む。		軟	3.15 3.45	5/30	1	1	3								
4		96.10	3.70	1.20		暗灰	色シルト混り細砂			4.15 4.25	8/30	1	1	2								○-2
5		94.70	5.10	1.40		暗灰	色粘土質シルト		中	5.15 5.25	8/30	2	3	3								
6		93.60	6.20	1.10		暗青灰	色シルト混り微細砂			6.15 6.25	7/30	1	3	3								
7							砂の粒子不均一。 腐植物混入する。 深度5.1~5.5m間砂質シルトを 挟む。		硬	7.15 7.45	11/30	3	2	2								○-3
8		92.20	7.60	1.80		暗茶褐	色粘土質シルト		極硬	8.15 8.25	16/30	8	6	6								
9		90.70	9.10	1.50		暗灰	色砂混りシルト			9.15 9.20	50/30	17	21	12								
10		89.30	10.50	1.80		暗灰	色砂		中	10.15 10.25	18/30	20	19	9								○-4
11		88.30	11.50	1.00		暗灰	色中砂		中	11.15 11.25	21/30	7	6	8								○-5
12		87.30	12.50	1.00		灰	色シルト混り微細砂		中	12.15 12.25	12/30	3	2	5								
13							砂の粒子不均一。 上部20m程度砂質シルトを 挟む。		極硬	13.15 13.25	4/30	6	7	8								○-6
14		85.60	14.20	1.70		灰	色砂質シルト		中	14.15 14.25	13/30	2	5	6								
15		84.30	14.90	0.70		暗灰	色微細砂		中	15.15 15.25	31/30	9	9	13								○-7
16		83.90	15.90	1.00		暗灰	色礫混り中砂		極硬	16.15 16.32	50/17	22	27	17								
17							砂の粒子不均一。 礫はα=5~30%程度。			17.15 17.22	50/27	16	20	17								○-8
18							砂はα=5~40%程度の 重円礫が主体である。			18.15 18.42	50/27	5	20	17								
19							砂は粒子不均一。粗砂主体。			19.15 19.39	50/24	17	20	13								○-9
20		79.30	19.50	4.60		暗青灰	色砂			20.00	礫が混入不能											
21		78.30	21.50	1.00		暗灰	色粗砂		中	21.15 21.25	37/30	12	12	13								○-10

備考

(註) 1. 標準貫入試験の項で10cm毎の打撃回数とは最初の10cm貫入に要した打撃回数、10cm~20cmの間で要した打撃回数、20cm~30cmの間で要した打撃回数をそれぞれしめたものである。

(註) 2. 試料採取方法の記号 (記号の右の数字は試料番号)

- 1 乱さない試料
- 2 貫入試験機による試料
- ◎-3 コア試料